

(東京都内面)

東京新聞

中日新聞東京本社

東京都千代田区内幸町二丁目1番4号

〒100-8505 電話 03(6910)2211

日大生がドキュメンタリー制作 原発事故後の

生き方探る

後藤教授(右から3人目)を交え映像をチェックしながら改善点を出し合う学生たち=2月、世田谷区の日大文理学部で



日本大学文理学部社会学科(世田谷区)の学生たちが、福島第一原発事故後に被ばくから子どもを守るために行動する人々を追ったドキュメンタリーを制作した。2011年11月から昨年9月にかけて東京、岡山、沖縄で取材。就職活動や卒論の合間を縫って編集作業を重ねて62分の映像にまとめた。(小形佳奈)

ドキュメンタリーで石垣島に移住した女性が語る場面



それが希望につながる

子どもを守るため行動する人々を追う

タイトルは「つむぎ合う、未来。ーポストフクシマの新しい生き方と社会像」。後藤範章教授(都市社会学)のゼミに所属する四年生六人が中心となって取材や撮影、編集などにあたった。学生たちは、福島県から避難した人々を支援する映像に出演。母親仲間と

る岡山県の女性や、子ども「世田谷子どもを守る会」もの健康を考えて神奈川県から沖縄県の石垣島に移住して民宿を営む女性らに話を聞いた。取材を通じ、子どもを守りたい一心で活動を始めた女性たちが、同じ思いを抱く人々と連携を深めているという共通点に気づいたという。

制作スタッフの山本愛香さん(三)は「母親として命を守りたいとつながった人々が思いを共有し、新たな活力が生まれる。今回の場合だけでなくどんなことにも通じる」と感じた」と話す。

四月から大学院生や社会人として新たな一歩を踏み出す学生たちは「自分ならどうするか、守るべき大事なものは何かをあらためて考えてほしい」と願う。

世田谷区内で小学一年から高校二年の三児を育てる瀬田美樹さん(四)も映像に出演。母親仲間と

後藤ゼミのホームページ

http://n510.com

で貸し出す。四月からは完全版のDVDを無料で貸し出す。